

## ‘The beautiful game’

毎年8月の初めの週に、英国中からいっせいに安堵のため息が聞こえてきます。というのも、英国全土のフットボール・ファンが、新しいシーズンに向けて、3ヶ月もの長い冬眠から起き出すからです。(ちなみに、英国では「サッカー」ではなく「フットボール」、通称では‘the beautiful game’といいます！) シーズンを待ちわびるファン恒例のこの儀式(?)や、チーム、試合のルールなどは、100年以上も変わるところがありません。

ただ、以前は庶民のスポーツと見なされていましたが、1990年代の初めに、スポンサーシップやサテライトテレビから流れ込む莫大なお金によって、フットボールを取り巻く環境は変化し始めました。富は外国人スター選手を英国に惹きつけることとなり、今日、多くのトッププレイヤーは、週10万ポンド(約2千百万円)稼ぐといわれています。

フットボールの敷居は少し高くなってきたものの、英国のフットボール観戦は、熱気に包まれた雰囲気を経験できる貴重な機会です。

ファンによる絶え間ない激励の歌やシュプレヒコールは、生の英語表現を聞くめったにないチャンスです。中でも白熱する試合は、ロンドンでのアーセナル対トッテナムや、グラスゴーでのセルティック対レンジャースといった同じ町出身のライバルチームの戦いでしょう。ちなみに、セルティックの試合では、卓越した技術や素晴らしいゴールでファンを虜にしている中村俊輔の雄姿も観戦できます。(コメンテーターは、発音に苦しみ、彼を‘Shunsookie’と呼んでいるようですが・・・)

試合観戦と同様、有名な試合場のツアー訪問もお勧めです。最近ロンドン北西部にオープンしたウェンブリー・スタジアムを訪れ、競技場を走ったり、選手が優勝カップを持って登っていく階段に登ることができます。<http://www.thestadiumtour.com/Home.aspx> その他、グラスゴーのハムデン・パークにあるThe Scottish Football Museum訪問を含むツアー(<http://www.scottishfootballmuseum.org.uk/>)も人気です。

ここで、フットボールから派生し、日常で使われるようになったフレーズをご紹介します。

‘Move the goalposts’ = 秘密裏に規則や条件を変える

‘Give it your best shot’ = 全力を出して頑張る

‘Score an own goal’ = 自分自身で問題を引き起こす

フットボールがいかに日常生活に根ざしたのか、よくわかりますよね。

また、1960年代のリバプール・フットボール・クラブのマネージャー、ビル・シャンクリーが「フットボールは生死に関わる問題だという人もいるが、更に重要な問題ではないか。」と言ったとされています。シャンクリーはおそらく半分ジョークでいったのですが、この言葉は、英国での‘the beautiful game’に対する情熱をうまく言い当てています。地元のチームを応援しながら、忠誠心や団結力そして人生の山と谷を学び成長した英国人は実にたくさんいるのです。そんな白熱したフットボール観戦を、ぜひ体験してみてくださいはいかがでしょうか？